

梶原町の文化的景観主要位置図

久万高原町（旧柳谷村）

四 国 力 ル ス ト



津野山神楽

津野山神楽がいつの頃から、どのようにして、この地に興ったものか定かではないが、延喜13年（913）藤原経高が津野山郷へ入国し、伊予の国より三嶋神社を勧請して守護神として祀られた時から、代々の神官によって歌い継ぎ、舞い継がれたものとされています。

昭和20年（1945）の敗戦と神楽修得者の減少により、一時すたれかかっていましたが、23年（1948）神楽復興の気運が興り、津野山神楽保存会が設立されました。

それまでの神楽は、代々特定の神職により世襲的に歌い、舞い継がれたものですが、この技を修得している唯一人の神職、掛橋富松翁を師として、旧習を破り、村内各地区より推された青年10数名に口伝により伝承講習されました。その後は、歴代の首長が保存会長となって後継の舞太夫が養成されています。

神楽は18節からなり、正式に舞い納めるには、約8時間を要します。急テンポの楽に合した、舞でありながら優美荘重で、雅の言葉そのままです。津野山神楽は、土佐の神楽の一つとして、昭和55年（1980）国の重要無形民俗文化財に指定されました。



葎ヶ峠

西予市
（旧城川町）



梶原町の茶堂

茶堂のルーツは明らかではありませんが、土佐藩政時代より、「遠来より来るものは厚遇すべし」という「客人信仰」の訓えに基づき、行路の人々に茶菓の接待を行っていました。以来、茶堂は梶原にとり、信仰と人情、社交の場としての役割を現代にいたるまで果たしています。

茶堂は1間半×2間四方の大きさで、津野公（津野親忠）の霊を慰めるため、木像、石仏を安置して祀っています。現在、町内には13カ所の茶堂が保存されています。



化粧坂（東町）の茶堂



茶や谷の茶堂

鬼北町（旧日吉村）

梶原町における「四万十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田」の重要文化的景観選定範囲



森林セラピーロード （久保谷溪谷）

久保谷セラピーロードの特徴は、日本一高低差がないこと、そして先人たちが急峻な森の傍らを掘削して築いた水路に沿っていることにあります。水路の回りにはふかふかの苔がむし、草花や樹木など幾種類もの命が育まれています。その足取りから森と人々がともに生きていることを感じてください。

※久保谷セラピーロード：延長=3km



四万十町
（旧大正町）

四万十町
（旧窪川町）

※ 〈 〉 内は地区名